

福島・小名浜へ 第一次地域訪問支援隊が出発

4月25日朝一番、東京民医連から福島県の小名浜生協病院にむけて第一次地域訪問支援隊が出発しました。浜通り医療生協（小名浜生協病院）では災害以来、地域支部の取り組みとして組合員の安否確認や訪問活動に取り組んできました。しかし、小名浜生協病院の断水が長期間続き水汲みに多大な労力を要した事、多くの職員が家屋喪失や一部損壊など被害を受けており、十分な訪問活動ができきていませんでした。

その結果、連絡や状況把握の出来ない組合員も相当数残されています。また、原発 20Km・30Km圏内からの避難者及びいわき市内被災者合わせて約 3,000 人が避難しておりここにも一定の組合員がいると思われそうですが、状況は不明です。こうした状況の打開に向けて、被災地を中心に 500~1,000 人の組合員と地域住民に対する集中的な地域訪問行動を行います。第一次の地域訪問支援活動は今日から 30 日までの1週間、現地での活動を職員とともにを行う予定です。派遣部隊は写真のメンバーですが、県連の手塚理絵さんは、「久しぶりの訪問活動に気持ちが高揚します。SW の経験を生かして少しでも被災者のためになる訪問をしたい」と決意を語っていました。

写真は第一次のメンバー

左から東京民医連事務局 手塚理絵さん
健康文化会 林とも江さん、
病体生理研究所 木村充宏さん、園木邦夫さん、
東京民医連事務局 秋濱洋一さん、滝澤久憲さん
その他すでに現地入りしているメンバー
東京民医連 吉田孝喜さん
厚生会 田村知秀さん



松島歯科支援に同行 被害の大きさを実感



宮城県東松島市は外海に面している為に、津波の被害が大きかった所です。

地図Aの場所、海岸から1キロ以上入った場所に野蒜小学校がありました。ここは地域の指定避難所でしたが、津波が押し寄せ体育館に避難していた地域の人達を襲いました。また、この学校のすぐ前に、松島医療生協のデイサービスがあり、職員3名と利用者11名が亡くなっています。

地震から1ヶ月以上経っていましたが、住宅地であった場所は瓦礫の山。海岸に近い所は引き潮で、瓦礫さえもほとんどなく、空き地のようになっていました。家も数件残ってはいましたが、1階部分はめちゃくちゃに破壊されて住める状況ではありません。門だけ残っていたり、家の土台だけがわずかに家の痕跡を留めているだけでした。ヘドロの様な匂いと家の残骸の中で、自衛隊の方々がおそらく遺体の搜索活動をしているような状態で、まだ復興への兆しは見受けられませんでした。

仙石線の線路が柵の様にめくれ上がり津波の威力が想像を絶するものでした。その様な被害が甚大な地域以外では、ライフラインも復活し、お店が再開したりなどして、日常の生活に戻る足がかりが出来ている様に見えました。

(東京民医連 歯科部担当 椿)